



みんなの スペース

◆あて先・問い合わせ

〒028-1392 (住所不要) 山田
町役場総務課情報係 ☎82-
3111内線417) へどうぞ。

彼岸 (秋分の日)

暑さ寒さも彼岸まで、
と言つて、春の彼岸は、
徐々に寒さも緩み、夏
に向けて忙しくなり、
漁業や農業に精を出し、
秋の彼岸は、一足跳び
に寒さに向い、山は色
づき、夕日は釣瓶落と
しの如く夕暮れが早く
なり、暑い季節に、そ
れぞれの職場で費やし
た体力を、補なう事に、
昔の人達は、年間行事
に設け、団子を作り、
ご先祖様に手向け、仕
事を小休止しながら、
「ゴビリー」を食べ、先
人の知恵を結集し、体
力の回復を図つたので
はと、自分なりに理解
している。

そんな内に、季節は巡り、いつしかセミの鳴く声も聞こえなくなり、陽一日と、秋の日差しは、名残り惜しむかの様に照りつけ、残暑厳しい折、漁業も農業も秋の収穫も最盛期を終え、越年に向けて、一生懸命働いた証しが、真黒に日焼けした顔だろう。そのほとぼりを、打ち消しかの様に一雨ごとに涼しさは増し、いつしか、霜月も過ぎ師走(十二月)を迎え、極暑は去り、極寒の到来を間近に、道を行き交う人々のあいさつも「一年も早えもんだなんす」と交わす様になり季節の移り変わりは、誰にも止める事の出来ない自然の法則でしょうね！

西館 隆(船越・80)

楽しかった 学習発表会

十月二十六日、織笠小学校で、「心一つに、全力でのりきろう、たのしもう」を、スローガンに学習発表会が行なわれました。全校生徒のはつらつとした発表力に拍手。私たちの子ども時代とは雲泥の差を感じております。
「合唱」「友だちは、いいもんだ」「純粋な歌声に共感、偽りのない老後を暮らしたい…。一、

二年生の童話劇「かさじぞう」を聞きながら、器の大きい老人に感動しました。私だったら自衛本能がさきになって、できないかな…。でも老人のように老いを生きたいものです。
菊地 サカエ(織笠・78)

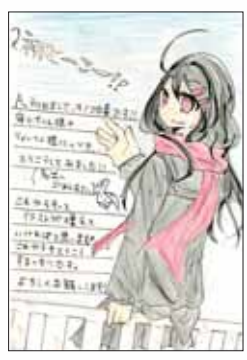
一番遠い記憶から

一九二八年十一月二日生まれ(昭和三年)一番遠い記憶としては、昭和八年の津波前のことを少し記憶しているが、小学校入学前後については、全然何も覚えがない。
大津波の経験というのは、人生においてどれほどの衝撃を受ける物なのかと思う。精神的にも成長過程にある年齢において、ある物を覚えておこうという考えはなからうと思うが、不自然にも意識した訳でもないのに、世紀の大事事件となれば、自身で遭遇することによって意識しなくても自然に脳裏に植え付かる物かと思われる。自然とは、人の能力をも支配したのかと思われる。

何かの事について、この事は是非とも記憶して置く必要があると知っている事が、時間が静かに過ぎると記憶もいつのまにか消え去り、いくら思い出そうとしても、どうしても思い出そう

としても、思い出せないことが度々ある。衝撃的な行為を受動した時、また精神的ショックを受けた時は、意識しなくともその物の記憶というのは定着しているのではないかと考えている。
記憶なんて曖昧な物、記憶とはそれほど大きな物でもあるが、反面頼り無い。
山崎 卓三(大浦・?)

イラストコーナー



キノコ中毒(織笠・14)



青空(織笠・19)



イラストどんどん送ってください！

やまだ文芸広場

あるがまま
生きて生かされ去年今年

道すがら杖つく爺様追ひこせば
わが行く末の姿見えくる

内館 洋一(飯岡・?)

狂い咲き 一輪の花の美しき事
山崎 泰司(船越・67)

アワビ泥懲りない奴ら又もやり
佐藤 兼男(荒川・86)

共に泣き共に笑って日がくれる
つまづいて
始めて我を思いつく
芳賀 誠一(豊間根・72)

支えてもらって
今年も残り1ヶ月
福祉に、支えてもらって、
周囲に支えてもらって
ありがとう。
佐藤 啓子(船越・?)

吹奏楽
「世界に一つだけの花」
いつ聞いても、心む歌に、
背のびしないで野花のように、
ひっそりと
菊地 サカエ(織笠・78)